TOP MUSEUM

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
TEL 03-3280-0099　FAX 03-3280-0033
www.topmuseum.jp

2023/07/25

風景論以後　After the Landscape Theory

2023 年 8 月 11 日［金・祝］—11 月 5 日［日］

足立正生／岩淵進／野々村政行／
山崎裕／佐々木守／松田政男
《略称・連続射殺魔》1969 年
デジタル（オリジナル 35mm）86 分
東京都写真美術館蔵

風景は、初期ルネサンスに遡る風景絵画に代表されるように、芸術や美と結び付けて語られ、西洋の近代芸術の主題となってきました。また明治維新後の日本においては、風景という概念が近代化の過程で大きな役割を果たしてきました。他方で、写真映像という視覚芸術において、カメラのレンズを通して撮影者の視点をうつしだすという意味で、風景はそのメディアの起源から現在まで常に重要な主題でした。そして「風景とは何か」を問いかける風景論は、常に社会的構造や美的基盤の在り方を語り、不安な時代や社会状況を契機として登場してきました。

本展で対象とする風景論は、経済成長と技術的進歩のなか、時代の転換期を迎える、1970 年前後の日本に現れました。今回の展示は、当時の風景論およびその理論と連動した写真映像表現を再考し、現在にいたるまでの作品群を結ぶことで、風景論以後の写真映像表現の可能性を概観するものです。技術の発展により、誰もが日常的に風景をとらえることができる現代において、写真映像表現を改めて見つめる機会をつくります。

風景論をめぐる写真・映像表現

風景とは何か。1970 年前後の日本に現れた風景論は、どこにでもある風景を現実の側からとらえ直そうとしました。視覚芸術を通じて、文化、社会、政治との関係から風景を表現していくその実験は、同時代の写真家、映像作家に大きな影響を与えました。
本展では、当時大きな論争を起こし、国際的な再評価が進んでいる風景論をめぐる歴史的な映像表現を出発点に、今日の現代作家にいたる作品群を繋いでいきます。

風景論とは

すべての地方もしくは辺境の街並みは、
均質化された風景としてのみ映じたのであった。

松田政男「風景としての都市」『現代の眼』1970 年

本展の起点となる、松田政男『風景の死滅』（1971）は、風景として表象される力の諸関係とどのように対峙するかを考える上で、同時代の先鋭的な写真家、映像作家に決定的な影響を与えました。本展は、1970 年前後に現れた、この松田政男による風景論を起点に、視覚芸術表現のあり方を、当時の資料も交えて紹介し、現代にいたるまでの写真・映像と風景の変容を、当館のコレクションを中心に検証します。
会期中、1 階ホールで、出品作家による関連イヴェントや、風景論をめぐる映画上映を行い、展覧会の主軸となる風景論を多角的に紹介します。

風景論「以後」

本展は、写真や映像に映しだされた風景の背後に存在する、かつてあったかもしれない、表面的には目にみえない、世の中を反映した時間や制度、事象などにまで思考を深める試みです。
本展で紹介する作家の実験的な表現や、風景論という、答えのない問いをめぐるアーカイヴ資料をとおして、現代を生きるうえで、自分自身の視座を見出す契機となれば幸いです。

展示構成および出品作家

０章　松田政男『風景の死滅』
１章　2000-
２章　1970-2010
３章　1968-1970
４章　風景論の起源

０章　松田政男『風景の死滅』(1971)

1970 年代を迎え、学生運動の潮流が衰退する一方で、全国的な都市化、均質化が進むなか、何の変哲もない日常的な風景を国家と資本による権力そのものだとする風景論が、写真や映像メディアと連動し大きく展開された。風景論を牽引した映画批評家の松田政男による議論は、のちに『風景の死滅』（1971）として刊行され、表紙には、風景論の理論化で重要な役割を果たした、写真家中平卓馬による写真が使用された。半世紀を経た現代において、「風景」に取り組むとはどのようなことなのだろうか。1960 年代後半まで時代を遡りながら、風景論を再考し、風景に関わるさまざまな表現を紐解き、その新たな可能性を検証する。

１章　［2000-］

笹岡啓子 Sasaoka Keiko、遠藤麻衣子 Endo Maiko

スマートフォンや小型カメラなどの普及によって、今や、誰もが、美しい風景を写真や映像に残すことが可能になった。一方で、ソーシャル・メディアは、個人の日常の風景から、災害や戦争などの社会事象にいたるまで、大量の映像や写真を日々共有し消費している。あらゆるイメージが氾濫している現代において、風景の背後に存在する、目に見えないものや、かつてあったかもしれない歴史や記憶と向き合うことは困難である。広島平和記念公園とその周辺を継続して撮影し、公園都市としての広島に向き合うことで、風景の不可視な領域に挑んできた笹岡啓子と、フィクションとドキュメンタリーの区別なく、各場所や空間の細部を映像化する実験を行ってきた遠藤麻衣子の活動から、現代における風景を考察する。

左）1_1　笹岡啓子〈PARK CITY〉より 2022 年 インクジェット・プリント　作家蔵
右）1_2　遠藤麻衣子《空》2022 年 オンライン映画より　東京都写真美術館蔵

2 章 ［1970–2010］

今井祝雄 Imai Norio、清野賀子 Seino Yoshiko、崟利子 Takashi Toshiko

1970 年代後半を経て、バブル経済の膨張と崩壊が起こる 1980 年代から 1990 年代にかけて、写真や映画の領域では、非商業的かつ個人に向かう表現が数多く生み出されていく。高校在学中から具体美術協会に参加し、造形作品を制作していた今井祝雄は、1970 年代頃から写真や映像を用いて、大阪の居住地周辺における日常的な風景の記録を開始する。1980 年代後半からファッション誌の編集者として活躍した清野賀子は写真家に一転し、人の気配を残した匿名的な風景を撮影していく。1990 年代に東京で活動をしていた崟利子は、2000 年代に伊丹へ拠点を移し、生活に根ざした風景に目を向けた伊丹シリーズを開始する。

2_1

2_2

2_3

2_1　今井祝雄《阿倍野筋》1977 年 シングルチャンネル・ヴィデオ（オリジナル 8mm）22 分

2_2　清野賀子〈Emotional Imprintings〉より 1996 年 発色現像方式印画

2_3　崟利子《伊丹 2006 年 冬》2006 年 シングルチャンネル・ヴィデオ　21 分　　すべて東京都写真美術館蔵

3 章 ［1968–1970］

中平卓馬 Nakahira Takuma

《略称・連続射殺魔》

足立正生　Adachi Masao
野々村政行　Nonomura Masayuki
佐々木守　Sasaki Mamoru
岩淵進　Iwabuchi Susumu
山崎裕　Yamazaki Yutaka
松田政男　Matsuda Masao

1968 年に象徴される社会運動の変容が迫られるなか、風景論が生み出される具体的な契機となった、足立正生、佐々木守、松田政男らによる映画《略称・連続射殺魔》は、1968 年に起こった無差別の連続射殺事件の犯人である 19 歳の永山則夫が、生まれてから逮捕されるまでに、見たであろう風景のみで構成されている。1968 年に多木浩二らと『Provoke』の創刊に関わった中平卓馬は、写真という枠組みを超えて、大きなインパクトを残した同誌で展開された「アレ・ブレ・ボケ」と称される表現を、最終的には自己批判し、風景論を経て、独自の実作と理論に向かっていく。

3_01

3_02

3_01｜中平卓馬《無題》1968-1969 年 ゼラチン・シルバー・プリント

3_02｜足立正生/岩淵進/野々村政行/山崎裕/佐々木守/松田政男 《略称・連続射殺魔》 1969 年 デジタル（オリジナル 35mm）86 分

すべて東京都写真美術館蔵

4 章 ［風景論の起源］

大島渚 Oshima Nagisa、若松孝二 Wakamatsu Koji、アーカイヴ資料

風景は、誰にとっても馴染みのある言葉であり、多様な文脈や歴史的背景で語られてきたがゆえに、風景論としてそれを定義することは難しい。1970 年代前後の日本に現れた風景論は、そのなかでも特異な位置を占めているが、同時代的な広がりや国内外における新たな再評価の流れにも関わらず、理論的な内容やその論争はほとんど知られていない。《略称・連続射殺魔》に加えて、風景論で大きな役割を果たした大島渚《東京战争戦後秘話》、若松孝二《ゆけゆけ二度目の処女》などの映像作品、アーカイヴ写真や印刷物を詳細に紹介することで、その議論と時代を再検証していく。当事者間の理論的な差異が、その理解を難しくした一つの大きな要因でもあった、風景論が内包する政治性と複雑性を再考する機会としたい。

4_01

4_02

4_01　大島渚《東京战争戦後秘話》より 1970 年 アーカイヴ資料映像
©大島渚プロダクション 協力：国立映画アーカイブ
4_02　若松孝二《ゆけゆけ二度目の処女》（抜粋版）1969 年 ©若松プロダクション

出品予定点数

86 点（うち映像作品 9 点、写真作品 43 点、資料 34 点）

公式図録

『風景論以後』

東京都写真美術館発行価格未定、全 126 頁
作品図版（一部出品作品を除く）と作品リストを掲載。田坂博子（東京都写真美術館）、平沢剛（映画研究者）による論考を収録。

関連イヴェント

□ 担当学芸員によるギャラリートーク

2023 年 8 月 11 日(金・祝) 14:00-
会　場：東京都写真美術館 地下 1 階展示室
参加費：無料（要チケット提示）
※当日有効の「風景論以後」展チケットまたは展覧会無料対象の方は各種証明書等をご持参の上、 地下 1 階展示室入口にお集まりください。

□ 担当学芸員によるギャラリートーク（手話通訳付き）

2023 年 9 月 8 日(金) 14:00-
2023 年 11 月 3 日(金・祝) 14:00-
会　場：東京都写真美術館 地下 1 階展示室
参加費：無料（要チケット提示）
※当日有効の「風景論以後」展チケットまたは展覧会無料対象の方は各種証明書等をご持参の上、 地下 1 階展示室入口にお集まりください。

□ 出品作家によるアーティストトーク

2023 年 8 月 25 日(金) 18:00-20:00
　　笹岡啓子（出品作家）×倉石信乃（明治大学教授、近現代美術史・写真史）
2023 年 9 月 30 日(土) 15:00-17:00
　　遠藤麻衣子（出品作家）他
2023 年 10 月 9 日(月・祝) 13:00-15:00
　　今井祝雄（出品作家）×平沢剛（本展企画協力、映画研究者）
会　場：東京都写真美術館 1 階ホール
定　員：190 名（整理番号順入場／自由席）
参加費：無料（要入場整理券）
※当日 10 時より 1 階ホール受付にて整理券を配布します。

□ 出品作家による上映：崟利子

2023 年 8 月 26 日（土）
アフタートーク・ゲスト｜崟利子（出品作家）、とちぎあきら（フィルムアーキビスト）

〈上映作品・スケジュール〉
【A】10:00
《伊丹 2005 年 夏》 24 分／《伊丹 2006 年 冬》 21 分／《伊丹 2006 年 春》 26 分／
《伊丹 2006 年 夏》 33 分
【B】13:00
《伊丹 2006 年 秋－2007 年冬》 45 分
【C】15:30 ※上映後アフタートークあり
《伊丹 2008 年 冬－2009 年春》 41 分／《伊丹 2009 年 初夏－晩秋》 61 分
【D】18:00
《伊丹 2009 年 冬－2010 年春》 52 分／《伊丹 2010 年 春－夏》 29 分／
《伊丹 2008 年 夏－秋》 35 分／《伊丹 2007 年 夏－秋》 25 分／《伊丹 2007 年 春－初夏》 39 分

〈伊丹シリーズ〉（全 12 作品）デジタル（SD）東京都写真美術館蔵

□ 出品作家による上映：遠藤麻衣子

2023 年 8 月 27 日（日）

〈上映作品・スケジュール〉

【E】13:00 《KUICHISAN》2011 年｜76 分｜35mm｜日本・アメリカ

【F】15:00 《TECHNOLOGY》2016 年｜73 分｜デジタル｜日本・フランス

【G】17:00 《TOKYO TELEPATH 2020》2020 年｜49 分｜デジタル｜日本

*配給はすべて A FOOL

□ 風景論をめぐる映画特集：平沢剛（キュレーター、本展企画協力）

上映アフタートーク・ゲスト｜山崎裕（出品作家、撮影監督）、後藤和夫（出品作家、映像作家）

〈上映作品〉

【H】足立正生／岩淵進／野々村政行／山崎裕／佐々木守／松田政男 《略称・連続射殺魔》1969 年
86 分 35mm 東京都写真美術館蔵

【I】大島渚《東京战争戦後秘話》1970 年 94 分 35mm 配給：大島渚プロダクション

【J】若松プロダクション《赤軍－P.F.L.P. 世界戦争宣言》1971 年 71 分 16mm 配給：若松プロダクション

【K】大島渚《少年》1969 年 97 分 35mm 配給：大島渚プロダクション

【L】グループポジポジ
《天地衰弱説》1969 年 30 分 デジタル（オリジナル 8mm）作家蔵
《天地衰弱説第二章》1970 年 38 分 16mm 作家蔵 相原信洋
相原信洋《風景の死滅》1971 年 15 分 デジタル（オリジナル 8mm）提供：戦後映像芸術アーカイブ

【M】原將人《初国知所之天皇》1973–2022 年 108 分 デジタル（オリジナル 8mm、16mm）作家蔵

【N】NDU（日本ドキュメンタリストユニオン）《沖縄エロス外伝 モトシンカカランヌー》1971 年 94 分
デジタル（オリジナル 16mm）提供：プラネット映画資料図書館

【O】高嶺剛《オキナワン ドリームショー》1974 年 111 分 デジタル（オリジナル 8mm）作家蔵
協力：シネマトリックス

【P】ジャン＝マリー・ストローブ、ダニエル・ユイレ《早すぎる、遅すぎる》1980–81 年 101 分 16mm
提供：神戸ファッション美術館

【Q】ジガ・ヴェルトフ集団（ジャン＝リュック・ゴダール、ジャン＝ピエール・ゴラン）
《イタリアにおける闘争》1969 年 60 分 デジタル（オリジナル 16mm）
配給：ゴーモン 協力：マーメイドフィルム

【R】ジャン＝リュック・ゴダール、アンヌ＝マリー・ミエヴィル《ヒア&ゼア こことよそ》1974 –75 年
53 分 デジタル（オリジナル 16ｍｍ）配給：ゴーモン 協力：マーメイドフィルム

〈上映スケジュール〉

8 月 24 日［木］ 18:00- 【H】［※1 山崎裕］
10 月 6 日［金］ 18:00- 【J】
10 月 7 日［土］ 10:00- 【K】 13:00-【I】 15:00-【L】［※2 後藤和夫］ 18:00-【M】
10 月 8 日［日］ 13:00- 【N】 15:00-【O】 18:00-【P】
10 月 9 日［月・祝］ 15:00- 【I】 18:00-【H】
10 月 12 日［木］ 18:00- 【Q】
10 月 13 日［金］ 18:00- 【R】

「出品作家による上映」「風景論をめぐる映画特集」共通
当日券（1 プログラムにつき）500 円
全席指定／各回定員（190 名）入替制／立ち見不可／事前予約不可
※ご鑑賞当日 10:00 より当日上映回すべての受付を開始。
※諸般の事情により内容を変更する場合があります。

開催概要

展覧会名[和]　風景論以後
展覧会名[英]　After the Landscape Theory
主 催｜東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、日本経済新聞社
助 成｜公益財団法人ポーラ美術振興財団
展覧会企画・構成｜田坂博子（東京都写真美術館）
企画協力｜平沢剛（映画研究者）
会　期｜2023 年 8 月 11 日（金・祝）－11 月 5 日（日）
会　場｜東京都写真美術館　地下 1 階展示室
休館日｜毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館）
料　金｜一般 700（560）円／学生 560（440）円／中高生・65 歳以上 350（280）円
※（　）は有料入場者 20 名以上の団体、当館の映画鑑賞券ご提示者、各種カード会員割引料金 ／ 小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者（2 名まで）、年間パスポートご提示者は無料／第 3 水曜日、9 月 18 日(月・祝)敬老の日は 65 歳以上無料　※各種割引の併用はできません。
※ 8 月 11 日（金）- 8 月 31 日（木）の木・金 17:00-21:00 はサマーナイトミュージアム割引（学生・中高生無料／一般・65 歳以上は団体料金）
TEL｜03-3280-0099（代表）　www.topmuseum.jp

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

＊図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよび和英いずれかクレジットの表記をお願いします。

＊オンライン媒体への図版掲載は作品保護の観点から、長辺 800～1000 ピクセル以下をご利用ください。

＊図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
TEL 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 /www.topmuseum.jp
展覧会担当　田坂博子　　副担当　小林 / 邱 / 藤村
広報担当　平澤 / 池田 / 鈴木(彩)　press-info@topmuseum.jp

本展は諸般の事情により内容を変更する場合があります。最新情報は当館ホームページをご確認ください。